



2023年1月13日

マツダ、「MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV」を欧州で初公開

ー ローターエンジン発電機として使用する独自のプラグインハイブリッドモデル ー

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、ロータリーエンジンを発電機として使用するプラグインハイブリッドモデル「MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV(エムエックス サーティーン イースカイアクティブ アールイーブイ)」を本日ブリュッセルモーターショー*1で初公開しました。



MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV
Edition R (欧州仕様)



MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV (欧州仕様)

マツダ初の量産バッテリーEVとして2020年に導入したMX-30は、マイルドハイブリッドモデルも一部市場向けにラインアップして、マツダの電動化を主導してきたモデルです。「わたしらしく生きる」をコンセプトに、純粋で心地よい走り、親しみやすさを感じるデザインや、温かみのある素材使いによる心ととの室内空間などにより、創造的な時間と体験をお客さまに提供してきました。

MX-30 e-SKYACTIV R-EVは、MX-30の基本的な提供価値はそのままに、バッテリーEVとしての使い方を拡張したシリーズ式プラグインハイブリッドモデルです。日常の幅広いシーンにおいてバッテリーEVとして使える85kmのEV走行距離*2を備え、発電によってさらなる長距離ドライブにも対応、さらに、その走行の全てをモーターで駆動します。

その発電機として採用したのが、ロータリーエンジンです。新たに開発した発電用ロータリーエンジン*3は、必要とされる出力性能をコンパクトに実現できるロータリーエンジンの特長を活かし、高出力モーター、ジェネレーターと同軸上に配置してモータールームに搭載しています。そして、このコンパクトな電動駆動ユニットと、17.8kWhのリチウムイオンバッテリー、50Lの燃料タンクを組み合わせることで、独自のシリーズ式プラグインハイブリッドシステムを実現しました。

また、普通・急速両方の方式に対応した充電機能や 1500W の給電機能、使用シーンに合わせて選択できる「EV モード」「ノーマルモード」「チャージモード」の 3 つの走行モードを備えるなど、お客さまのアクティブなカーライフをサポートします。

さらに、MX-30 e-SKYACTIV R-EV には特別仕様車「Edition R」を設定しています。黒基調の外板色および内装色としながら、ルーフサイドにはマツダ初の乗用車である「R360 クーペ」のルーフ色を復刻したマローンルージュメタリックを差し色として採用しています。また、フロアマットやシートのヘッドレストには、ローターの形状を模したバッジやエンボス加工などの専用デザインを施しました。

マツダは 2030 年に向け、「ひと中心」の思想のもと人を研究し続け、人々の日常や移動することの感動体験を創造し、誰もが生き活きと暮らす「愉しさ」と「生きる喜び」を届けていくことを目指してまいります。

以 上

*1: 正式名称は「Brussels Motor Show」。プレスデーは 1 月 13 日、一般公開日は 1 月 14 日から 1 月 22 日まで。

*2: 「EV 走行換算距離(等価 EV レンジ)」。欧州 WLTP モードにおいて、「EV モード」選択時の数値。定められた試験条件下での数値であり、実際の走行条件等により異なります。また、ドライバーが急加速を意図してアクセルペダルをある一定の位置以上に深く踏み込んだ場合(一般的な AT 車におけるキックダウンスイッチの機能に相当)などは、必要な出力を得るために発電システムが作動して発電を行います。

*3: エンジン型式 8C